

現代日本論基礎講読 2015 年度 (3 セメスタ) 東北大学文学部

論文作成の基礎

田中重人 (東北大学文学部准教授)

2 年生対象：2015 年度 3 セメスタ <金 2> 133 講義室 (文学部棟 1F)

1 授業内容

大学での研究 (たとえば授業での課題, レポート, 卒業論文など) で要求される文章は、つぎのような条件を満たさなければなりません：

- データに基づいた論理的な推論を中心とする
- 論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である
- 誤解をまねかないよう正確に書かなければならない
- 先人の業績と自分の意見とを区別しなければならない
- そのために文献参照の規則を守らなければならない

この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。

1.1 成績評価

- 授業中の課題と宿題 (40%)
- 中間レポート (20%)
- 期末レポート (40%)

1.2 中間・期末レポート

中間レポート、期末レポートはそれぞれつぎのような内容にする予定：

中間レポート： 本・雑誌記事・TV 番組などなんでも批評

- 5/14(木) 12:00 までに計画を提出する。
- 5/29 授業時に草稿を提出する。提出された草稿をランダムに配布して、相互に批評 (赤ペンでコメント)。
- コメントを参考に書きなおして、6/11(木) 12:00 までに提出。→ この最終稿が採点対象になる。
- 最終稿の内容によっては、書きなおしを指示することがある。
- 6/22-26 の間に、最終稿についてのフィードバックを個別に (あるいはグループ別に) おこなう (この週は休講)
- 8/17 までに書き直して再提出すれば、多少加点する可能性あり

期末レポート： 各自でテーマを選んで最終レポート

- 7/ 2 (木) 12:00 までに構想と「目標規定文」を提出
- 8/14(金) までに提出 (詳細未定)
- 9/ 3 (木) 以降に返却 (詳細未定)

(いずれも現時点での予定です。授業の進行状況などによって変更する場合があります。)

中間レポート、期末レポートとも、特によいものについては、著者の同意をえたうえで、インターネット上で公開することを考えています。過去のものについては、<http://tsigeto.info/2001/writing/> から一部たどれるようになっているので、参考にしてください。

1.3 受講者との連絡とフィードバック

- 毎回の課題・宿題は、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)。
- 中間レポート、期末レポートは、採点後に返却します。
- レポートは、ISTU によるオンライン提出とします → <http://www.istu.jp> (学務情報システムで履修登録しない人は、ISTU で「現代日本論基礎講読」に登録申請しておくこと)
- 宿題の中にも、オンライン提出のものがあります。この場合、提出期限は 授業前日 (木曜) 正午 (12:00) です。

教員からの連絡は、ISTU「お知らせ」「掲示板」のほか、個人ブログ <http://b.tsigeto.info/writing/> (RSS フィード 利用可) に出る場合があります。

2 予定

1 イントロダクション (4/10)

(4/17 は休講)

2 論文の基本形 (4/24) [3.2-3.4, 10.3]

3 パラグラフ (5/1) [4]

4 文と文の接続 (5/8) [4, 5]

5 構文解析 (5/15) [5]

6 構想・立案・材料の準備 (5/22) [2, 3.5, 8.6]

7 草稿を読む：中間レポート相互批評 (5/29)

8 句読法 (6/5)

9 データを簡潔に表現する (6/12)

10 科学的文体 (7/19) [6, 7, 8]

(6/26 は休講の予定。かわりに、中間レポートについてのフィードバックをおこなう。)

11 書誌情報の利用 (7/3) [9.4]

12 文献参照 (7/10, 17) [9.4]

13 公表文章の倫理 (7/24)

※ [] 内は教科書の参照箇所 (セクション番号)

3 教科書と参考文献

3.1 教科書

木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』中央公論新社.

3.2 その他の推薦図書

入門者向け：

- 齊山弥生・沖田弓子 (1996) 『研究発表の方法』凡人社.
- 二通信子・佐藤不二子 (2000) 『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク.

系統的な練習：

- 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 (1997) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版.
- 大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房.

文科系向け：

- 齊藤孝・西岡達裕 (2005) 『学術論文の技法』(新訂版) 日本エディタースクール出版部.
- Gibaldi, J. (1998) 『MLA 英語論文の手引き』北星堂書店.

日本語文法に関して：

- 大野晋 (1998) 『日本語練習帳』岩波書店.
- 井上優 (2002) 『日本語文法のしくみ』研究社.
- 各種国語教科書・参考書

ワープロによる執筆法：

- 木村泉 (1993) 『ワープロ作文技術』岩波書店.
- ワープロソフトの解説書・マニュアル類

研究の糸口のつかみかた：

- 渋谷恵宜 (2000) 『卒論応援団』クラブハウス.
- 戸田山和久 (2002) 『論文の教室: レポートから卒論まで』日本放送出版協会.

レポート全般：

- 田中重人 (2005) 「レポートを作成する」『人文科学ハンドブック: スキルと作法』東北大学出版会, pp. 74-80.
- 酒井聡樹 (2007) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版.

4 必要な準備

国語辞典 (授業中に使う場合がある)

赤ペンおよびその他の色のペン (授業中に使う場合がある)

レポート執筆用にパソコンを使える環境を確保すること

- 手書きでは推敲がむずかしい
- 当授業のレポートは自筆不可
- 各研究室・コンピュータ実習室などを積極的に利用する

5 宿題

附属図書館 (本館 2 号館) 所蔵の学術雑誌からつぎの条件を満たす適当な論文を探し、コピーをとる。次回の授業で使うので、持ってくること。

- セクションがすくなくとも 4 つ以上にわかれていること
- 論文末尾に文献一覧が付いていること

つぎの部分をコピーすること

- 論文の全体
- 雑誌の名称や出版者がわかる部分 (表紙など)
- 雑誌の編集方針や論文掲載基準がわかる部分

6 予習

教科書 3.2-3.4 節 (35-50 ページ), 10.3 節 (196-213 ページ) を読んでおくこと。

7 連絡先

田中重人 (東北大学文学部日本語教育学研究室)

〒: 980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 文学部・法学部合同研究棟 2F

E-mail: tanakas2013 @ tsigeto. info

Homepage: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/>

Blog: <http://b.tsigeto.info/school>

オフィス・アワーは定めていない。質問等がある場合は、あらかじめ適当な時間に予約をとること。

受講者への連絡は、基本的に、文学部 2F 教務係前の掲示板または東北大学「学務情報システム」または ISTU システムにおいておこなう。ただし、休講などで緊急を要する連絡は、田中の個人ブログ (School カテゴリの記事) に掲載することがある。<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/newsj.html> を参照。

現代日本論基礎講読 (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (文学部日本語教育以外の場合):

興味のあること (非学術的な話題も可):

つぎの質問にこたえてください (あてはまるものに○)

- ・6,000字以上の長さの文章を書いたことがありますか? **ある / ない**
- ・受験勉強で「小論文」の練習をしたことがありますか? **ある / ない**
- ・学術雑誌にのっている論文を読んだことがありますか? **ある / ない**
- ・図書館2号館を利用したことがありますか? **ある / ない**
- ・自宅でパソコンまたはワープロがつかえますか? **つかえる / つかえない**

(日本語学習者の場合) 日本語運用能力に関する配慮 **必要 / 不要**

そのほか配慮を要する事項がある場合:

以下は採点用

宿題													
課題													
参加													

中間			
期末			